

「近現代の日本における医療の構造変化と歴史の重層」報告会
生産・共同体・消費－20世紀医療史研究の方法論をめぐって

1. 20世紀医療をいかに解釈すべきかーピクストン・モデルをめぐって

- ・ 20世紀における医療の政治化
- ・ 国家医療、社会主義的医療の登場、医療の民主化
- ・ ピクストン・モデル
- ①生産性重視型医療（productionist medicine）
- ②社会的紐帯重視型医療(communitarian medicine)
- ③市場重視型医療(consumerist medicine)
- ・ 既存の分析概念の再考
- ①公私（public/private）
- ②国家・民間(state/market) の再考

2. ピクストンによる20世紀医療解題

- ・ 19世紀における医療形態
- ①救貧医療
- ②公衆衛生
- ③慈善医療
- 1885年 医療救済欠格除去法
- ・ 兵員管理と保健政策
- 1903年9月 体位低下に関する部局間委員会報告書刊行
- 1899年 ミルクの保存・販売所の設立
- 1902年 助産婦法
- 1907年 教育（行政措置）法
- 1911年 国民保険法
- ・ 総力戦体制と出産奨励主義
- ①兵員不足問題
- 「われわれが過去50年の間、乳幼児の生命の留意されない浪費を防ぐことにもっと気をつけていたならば、われわれはいまや国防のために利用しうる男を少なくとも50万人も多く持ったことであろう」
- ②母子保健政策の進展
- 1915年 母親のための児童ケア教室
- 1916年 助産婦法改正法
- ・ ソヴィエト医療政策とその衝撃

・ベヴァリッジ報告と福祉国家への期待

・第二次大戦後の国家医療

①戦争形態の変化

②出産意欲の向上

③疾病構造転換

④サッチャリズムの登場

3. ピクストン・モデル援用の試み

・複合型①：社会的紐帯重視型医療－市場原理重視型医療

例：慈善医療

生産性重視主義による国家医療の伸長と慈善医療への資金減

中産階級の伸長と病院医療への需要増大

例：国民保健サービス（National Health Service）

ベヴァリッジ報告の戦意高揚のための利用、新時代国家への期待

医師専門家とベヴァンの交渉

地方自治体（非医師）による統制、俸給制

NHS 内での私診療の残存

・複合型②：生産性重視型医療－市場原理重視型医療

例：精神衛生思想

「精神疾患の早期治療」言説

言説の修辞にみる生産性重視型と市場重視型

4. 21 世紀医療への展望

・複合型③：生産性重視型医療－社会的紐帯重視型医療

世界銀行報告書『健康への投資：世界発展報告書』（*Investing in Health: World Development Report, 1993*）と「障害調整生存年数」（DALYS）

世界保健機関報告書『精神保健－新しい理解、新しい希望』（*Mental health: new understanding, new hope, 2001*）

参考文献

Brian Abel-Smith, *The hospitals, 1800-1948: a study in social administration in England and Wales*, London: Heinemann, 1964.

Martin Daunton (ed.), *Charity, self-interest and welfare in the English past*, London: UCL Press, 1996.

David Englander, *Poverty and poor law reform in Britain: from Chadwick to Booth, 1834-1914*, London; New York: Addison Wesley Longman, 1998.

Margaret May and Edward Brunson, "Commercial and occupational welfare," Robert M. Page and John Pickstone, "Production, Community and Consumption: The Political Economy of Twentieth-Century Medicine," Roger Cooter and John Pickstone (eds), *Companion Encyclopedia of Medicine in the Twentieth Century*, Routledge, 2002, pp. 1-19.

Richard L. Silburn (eds), *British social welfare in the twentieth century*, Basingstoke: Macmillan, 1999, pp. 271-298.

Keir Waddington, "'Grasping gratitude:' charity and hospital finance in late-Victorian London," Martin Daunton (ed.), *Charity, self-interest and welfare in the English past*, London: UCL Press, 1996..

Keir Waddington, "'Unsuitable Cases': The Debate Over Outpatient Admissions, the Medical Profession and the Late-Victorian London Hospitals", *Medical History*, No. 42, 1998.

金澤周作『チャリティとイギリス近代』京都大学学術出版会、2008年

パット・セイン、深沢和子、深沢敦訳『イギリス福祉国家の社会史—経済・社会・政治・文化的背景 (MINERVA福祉ライブラリー)』ミネルヴァ書房、2000年

図

図1 イングランドにおける医療需給概念図

	上流階級	中流階級	下層階級
階級	←		
一次医療	【購】一般開業医		【保】産業医 救貧院
二次医療 専門医療	【購】専門病院・専門医	【慈】篤志病院	
看護サービス	【購】私営看護サービス	家族	
精神医療	【購】私営精神病院	【慈】篤志精神病院	公立精神病院